



H25年11月
T・TAK 発行

小牟禮副院長を紹介します！

◎大阪より赴任された『小牟禮 修副院長』の紹介です。

※プロフィール紹介、長所・短所などを教えてください。

生まれも育ちも甲子園！！幼稚園の頃はバッキー（阪神タイガースの有名な投手）の庭で遊んでいました。好きな野球球団は？なんて決して聞いてはいけません。

少しまわり道をしたあと、神戸大学入学。県立尼崎病院で研修したあと、約17年京都の宇多野病院（神経内科）におりました。平成17年6月～平成19年5月京都府難病相談・支援センターの初代センター長をしていました。その後、大阪狭山市の脳神経・整形の専門病院、高槻市の個人病院を経て、この4月からIH 播磨病院で勤務しています。

長所は集中力、雑学が豊富なこと。短所は飽きっぽいこと、期日が迫らないと仕事をしないこと。



※IH 播磨病院の第一印象は？

相生らしい船を想像させる、明るくて綺麗な病院。
アットホームな雰囲気。

※得意分野を教えてください。

神経難病、とくに遺伝性神経変性疾患。これまでに、歯状核赤核・淡蒼球ルイ体萎縮症（DRPLA）遺伝子、第17番染色体に連鎖する家族性前頭側頭型認知症パーキンソンニズム（FTDP-17）：タウ遺伝子、家族性筋萎縮性側索硬化症（FALS）：オプチニューリン遺伝子の変異の同定に関わってきました。

※神経内科とは、主にどのような病気を診ただけの診療科でしょうか？

神経内科は脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気をみる内科です。本院では認知症、脳卒中、頭痛、めまい症、しびれ、神経難病などを主にみています。

認知症ではアルツハイマー型、血管障害性が、脳卒中では脳梗塞が、頭痛では緊張型頭痛が比較的多く、めまい症では良性発作性頭位めまい、椎骨脳底動脈循環不全が、しびれでは末梢神経障害、変形性頸椎症が多い傾向にあります。神経難病ではパーキンソン病および関連疾患、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の三疾患が大部分を占めています。

下記のような症状のある方は是非当科でご相談下さい。

- ◆ 考えたり覚えたりすることが下手になった。
- ◆ 何度も同じことを言う。物忘れが増えた。
- ◆ 頭が痛い。
- ◆ めまいがする。

- ◆ しゃべりにくい。ものが飲み込みにくい。むせる。
- ◆ 手足がふるえる。動作が遅い。細かい仕事がしにくい。
- ◆ 歩きにくい。フラフラする。
- ◆ 手足に力が入らない。手足がしびれる。



※最近うれしかったこと・楽しかったことは？

- ①週末に2時間程度歩くようになってから、腰痛がかなり良くなったこと。
(そのあと飲んでしまうので、体重は減っていませんが・・・)
- ②美味しいお店がいくつか見つかったこと。夕食が楽しくなりました。
- ③水木しげるの「ゲゲゲの鬼太郎」が、意外に社会風刺に富んで、メッセージ性が強いこと。

※ストレス解消方法をお聞かせ下さい。

- ①楽しくお酒をのんで、カラオケで熱唱する(がなる?) こと。
- ②面白い本を読むこと。

印象に残っている本(ベスト3)

国内：1. 化石の森(石原慎太郎)、2. コインロッカー・ベイビーズ(村上龍)、3. 火車(宮部みゆき)・博士の愛した数式(小川洋子)

海外：1. 「悪童日記」三部作(アゴタ・クリストフ)、2. 罪と罰(ドストエフスキー)、3. キッシンジャー秘録(監修：桃井真～防衛庁幹部ですが、実はあの桃井かおりさんのお父様です)

- ③何も考えずにただ歩くこと。



※地域の皆様にメッセージをお願いします。

相生は河本敏夫氏が新幹線をとめた(我田引鉄?) 町としてよく知っていました。ただ、赴任する少し前の日曜日、初めて当地を訪れたときは本当にびっくりしました。まるでゴーストタウン、夕張みたいな町やないかと・・・こちらに住んで6ヶ月、かなり印象は変わりましたが。

“地域医療に貢献したい” 口で言うのは簡単ですが、実はとっても難しい。地域の皆様に安心して生活を送っていただくためには、夜間・休日を含めた救急医療(セーフティーネット)の充実が必要だと思います。高齢化が極めて進んだ当地で、住民の皆様の「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という思いを叶えていくためには、回復期医療・在宅医療にも力を入れていかなければなりません。問題は少ないマンパワーで、いかに急性期から在宅までシームレスな医療を押し進めていけるか?まさに、頭と体の使いどころです。

救急医療については、平日夜間10時まではかなり充実してきたのでは?回復期医療・在宅医療については、来年より回復期リハビリテーション病棟開設、訪問看護ステーション立ち上げを行います。短期間のレスパイト入院はすでに始めています。地域完結型医療の充実をめざして、T・TAK「退院後もつながります。あなたのこころとからだ」の精神で、少しずつ前進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

地域医療の充実のために貢献したい! 熱い想いの小牟禮副院長!! でした。

今後も、IHI播磨病院の各部門・先生・スタッフの紹介をします。

次回のT・TAK新聞もお楽しみに!!

バックナンバーは 病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp> からご覧いただけます。

by:M.H & K.T

～T・TAKよりお知らせ～

H26年1月24日(金)14:00より、糖尿病教室・介護教室とコラボして、以前播磨病院で勤務しておられた坂口先生を講師に迎え、教室を開催いたします。

ご参加お待ちしております。。